第Ⅲ編
市民ワークショップ等の実施

目　　次

頁

第Ⅲ編　市民ワークショップ等の実施

第１章　市民ワークショップ等の実施概要

1-1　実施目的 …… Ⅲ-1- 1
1-2　開催日程 …… Ⅲ-1- 1
1-3　議題 …… Ⅲ-1- 1
1-4　実施スケジュール …… Ⅲ-1- 1
1-5　ワークショップの進め方 …… Ⅲ-1- 2
1-5-1　グループ分け …… Ⅲ-1- 2
1-5-2　配布資料 …… Ⅲ-1- 2
1-5-3　会場レイアウト …… Ⅲ-1- 7

第２章　市民ワークショップの成果

2-1　実施結果 …… Ⅲ-2- 1
2-1-1　参加者数 …… Ⅲ-2- 1
2-2　参加者のアイディア・意見 …… Ⅲ-2- 2
2-2-1　１グループ …… Ⅲ-2- 2
2-2-2　２グループ …… Ⅲ-2- 3
2-2-3　３グループ …… Ⅲ-2- 5
2-2-4　４グループ …… Ⅲ-2- 7
2-2-5　５グループ …… Ⅲ-2- 9
2-2-6　６グループ …… Ⅲ-2-10
2-3　記録 …… Ⅲ-2-11
2-4　成果・検討結果 …… Ⅲ-2-20
2-4-1　３グループ以上でみられた項目 …… Ⅲ-2-20
2-4-2　２グループ以上でみられた項目 …… Ⅲ-2-20
2-4-3　全体の総括 …… Ⅲ-2-21

第３章　市民ワークショップの制作物

3-1　告知物等 …… Ⅲ-3- 1
3-1-1　チラシ及びポスター …… Ⅲ-3- 1

第Ⅲ編　市民ワークショップ等の実施

第1章　市民ワークショップ等の実施概要

1-1　実施目的

芦原温泉駅周辺まちづくりプランの策定にあたり、市民ニーズの把握及び市民参画の機会創出、さらには、北陸新幹線開業に向けた市民の機運の高揚を図るため、市民ワークショップを実施する。

1-2　開催日程

開催日程：平成 29 年 9 月 20 日（水）19：30～21：30
開催場所：a キューブ（あわら市春宮一丁目 11 番地）

1-3　議題

芦原温泉駅周辺まちづくりプランの実現に向け、具体的なアイディアやこうしたほうがよいと思うことを話し合い、共有する。

1-4　実施スケジュール

19:00	受付
19:30	開会,概要説明
19:40	まちづくりプランについての説明
19:50	グループディスカッション
20:40	各グループの発表
21:10	講評
21:30	終了

1-5　ワークショップの進め方

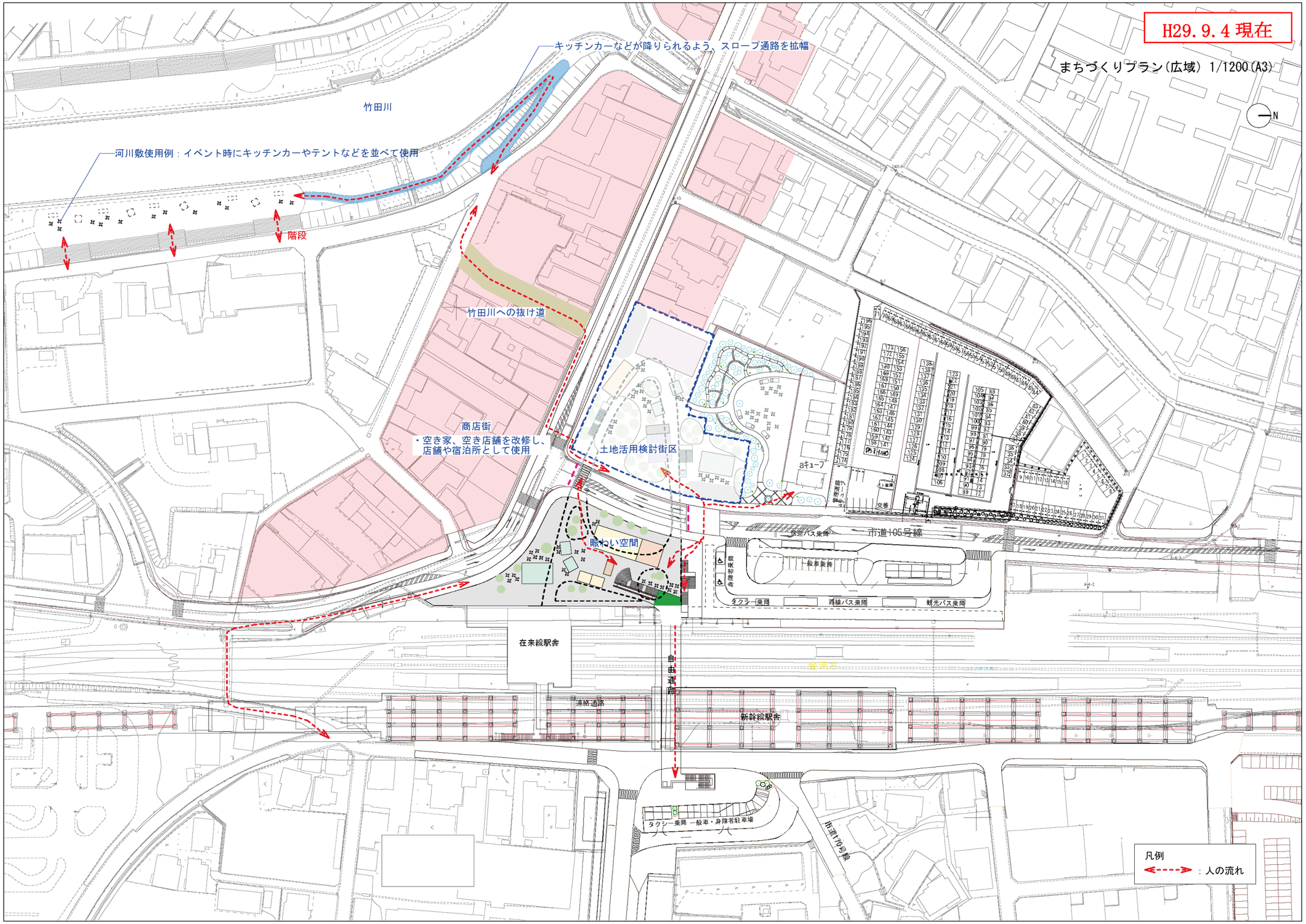
1-5-1 グループ分け

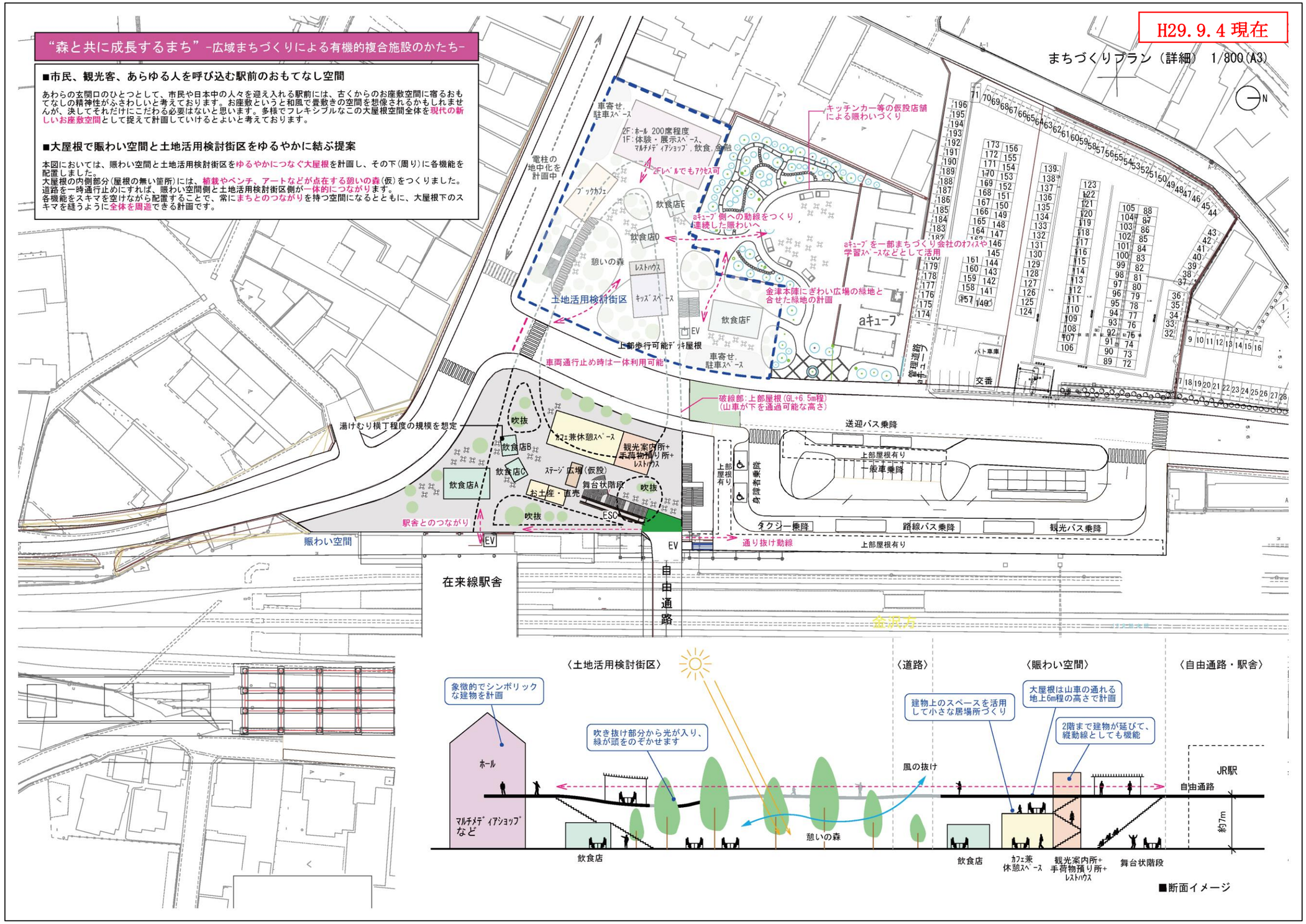
参加者を 6 グループに分け、ディスカッションを行った。

芦原温泉駅まちづくりデザイン部会の部会員及び名古屋工業大学大学院 伊藤孝紀研究室の学生が各グループのファシリテーターとして、ディスカッションに参加した。

1-5-2 配布資料

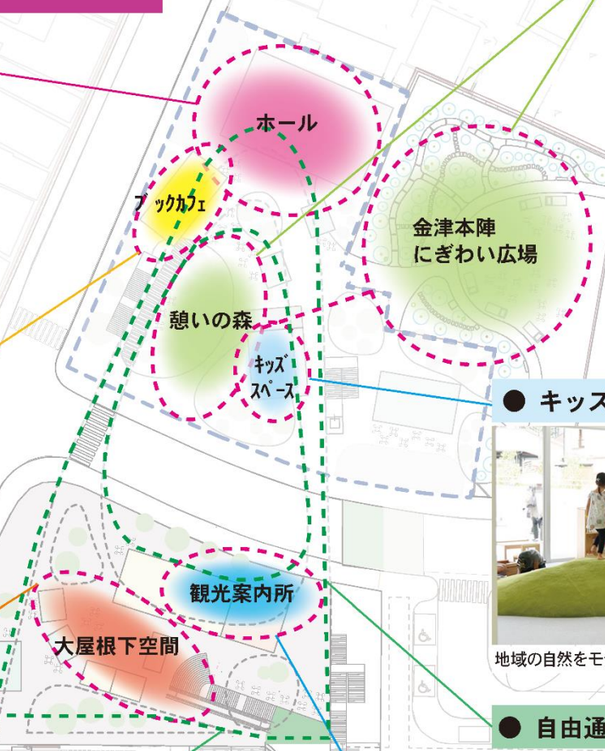
参加者に市民ワークショップの概要説明として、まちづくりプランの素案についての説明を行った。その際に配布した資料を次頁に示す。


H29.9.4 現在
まちづくりプラン(広域) 1/1200(A3)
N
キッチンカーなどが降りられるよう、スロープ通路を拡幅
竹田川
河川敷使用例：イベント時にキッチンカーやテントなどを並べて使用
階段
竹田川への抜け道
商店街
・空き家、空き店舗を改修し、
店舗や宿泊所として使用
土地活用検討街区
aキューブ
憩わい空間
市道105号線
一般車乗降
タクシー乗降
路線バス乗降
観光バス乗降
在来線駅舎
自由通路
連絡通路
新幹線駅舎
タクシー乗降 一般車・身障者駐車場
市道70号線
凡例
：人の流れ


H29.9.4 現在
まちづくりプラン（詳細） 1/800(A3)
“森と共に成長するまち”-広域まちづくりによる有機的複合施設のかたち-
■市民、観光客、あらゆる人を呼び込む駅前のおもてなし空間
あわらの玄関口のひとつとして、市民や日本中の人々を迎え入れる駅前には、古くからのお座敷空間に宿るおもてなしの精神性がふさわしいと考えております。お座敷というと和風で畳敷きの空間を想像されるかもしれませんが、決してそれだけにこだわる必要はないと思います。多様でフレキシブルなこの大屋根空間全体を現代の新しいお座敷空間として捉えて計画していけるとよいと考えております。
■大屋根で賑わい空間と土地活用検討街区をゆるやかに結ぶ提案
本図においては、賑わい空間と土地活用検討街区をゆるやかにつなぐ大屋根を計画し、その下(周り)に各機能を配置しました。
大屋根の内側部分(屋根の無い箇所)には、植栽やベンチ、アートなどが点在する憩いの森(仮)をつくりました。
道路を一時通行止めにすれば、賑わい空間側と土地活用検討街区側が一体的につながります。
各機能をスキマを空けながら配置することで、常にまちとのつながりを持つ空間になるとともに、大屋根下のスキマを縫うように全体を周遊できる計画です。
車寄せ、駐車スペース
2F:ホール 200席程度
1F:体験・展示スペース、マルチメディアショップ、飲食、金融
2Fレベルでもアクセス可
電柱の地中化を計画中
ブックカフェ
飲食店E
飲食店D
憩いの森
レストハウス
キッズスペース
土地活用検討街区
キッチンカー等の仮設店舗による賑わいづくり
aキューブ側への動線をつくり連続した賑わいへ
aキューブを一部まちづくり会社のオフィスや学習スペースなどとして活用
金津本陣にぎわい広場の緑地と合せた緑地の計画
aキューブ
飲食店F
EV
上部歩行可能デッキ屋根
車寄せ、駐車スペース
車両通行止め時は一体利用可能
管理道路
バス車庫
交番
破線部:上部屋根(GL+6.5m程)(山車が下を通過可能な高さ)
送迎バス乗降
湯けむり横丁程度の規模を想定
吹抜
カフェ兼休憩スペース
観光案内所+手荷物預り所+レストハウス
飲食店B
飲食店C
飲食店A
ステージ広場(仮設)
舞台状階段
お土産・直売
ESC
駅舎とのつながり
賑わい空間
上部屋根有り
一般車乗降
身障者乗降
タクシー乗降
路線バス乗降
観光バス乗降
通り抜け動線
在来線駅舎
自由通路
〈土地活用検討街区〉
〈道路〉
〈賑わい空間〉
〈自由通路・駅舎〉
象徴的でシンボリックな建物を計画
吹き抜け部分から光が入り、緑が頭をのぞかせます
建物上のスペースを活用して小さな居場所づくり
大屋根は山車の通れる地上6m程の高さで計画
2階まで建物が延びて、縦動線としても機能
ホール
マルチメディアショップなど
風の抜け
JR駅
自由通路
約7m
憩いの森
飲食店
カフェ兼休憩スペース
観光案内所+手荷物預り所+レストハウス
舞台状階段
■断面イメージ

H29.9.4 現在

空間のイメージ



● 建物と大屋根デッキの接続イメージ

小さな建築ボリュームをデッキ状空間がつなげている

● ブックカフェのイメージ

カフェでゆっくり読書をして、欲しい本を選ぶことができる

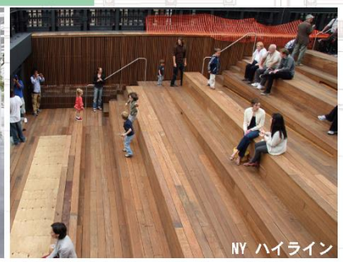
● 大屋根下のイベント活用イメージ

ミニコンサート

マルシェ

● 大屋根下の空間イメージ

細い柱で構成し、緩やかな間仕切りとなる



舞台状階段に座ってイベントを楽しむ

● 憩いの森・金津本陣にぎわい広場のイメージ

金津創作の森のような木陰空間

自然環境の復元

子どもの遊具やベンチを配置し、「憩いの森」に滞在したい仕掛けをつくる

● キッズスペースのイメージ

地域の自然をモチーフとした遊具。屋外も十分に見渡せる

● 自由通路～大屋根のイメージ

各ゾーンや建物を緩やかにつなげる

眺望を楽しめたり、ゆったり過ごすことができる

● 観光案内所のイメージ

カフェや土産物店、レンタルサイクル店と観光案内所が一体的になっている

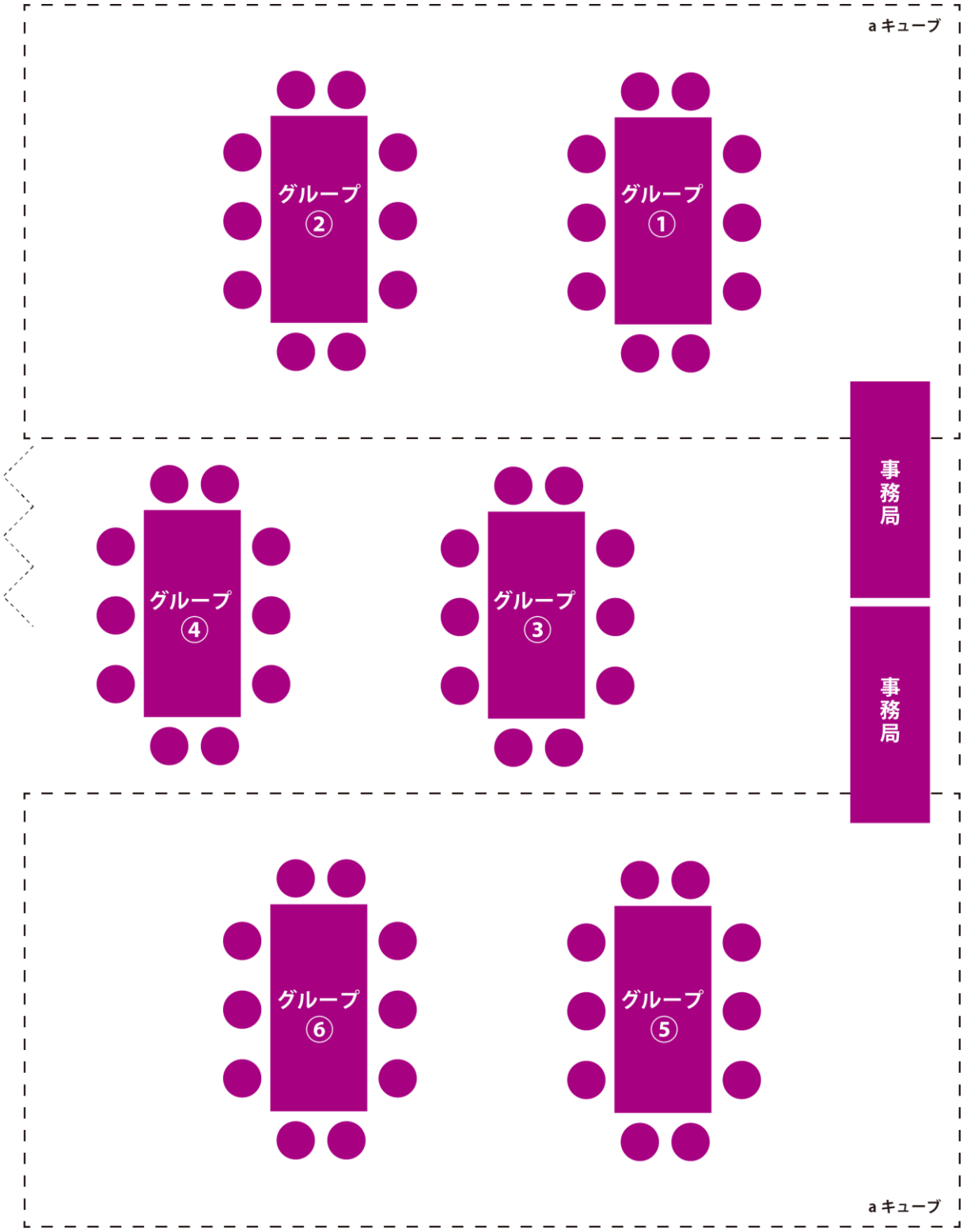
H29.9.4 現在

芦原温泉駅前イメージパース

本パースはイメージであり、今後の検討により変更される可能性があります。

1-5-3 会場レイアウト

ワークショップ時の会場レイアウトを以下に示す。



図_会場レイアウト

第2章　市民ワークショップの成果

2-1　実施結果

2-1-1　参加者数

1 グループ: 10 名
2 グループ: 8 名
3 グループ: 8 名
4 グループ: 8 名
5 グループ: 8 名
6 グループ: 9 名
合計: 51 名

2-2　参加者のアイディア・意見

2-2-1　1グループ

【ショップ】
・市民や市内企業の参加型ショップ　etc.洋服屋、雑貨屋
・核となる365日営業のショップ
・子供など、駅を目的としない人でも行きたくなるショップ etc.駄菓子屋

【飲食店】
・駅ならではのカフェ(新幹線が入ってくることが見えるなど)
・開放された居酒屋　etc.ビアガーデン
・雨や雪などの環境の変化に対応できる多様な居場所が必要
・主婦が家事の合間に利用できるカフェ
・高齢者、障害者、子供が主役になれる空間
・出た業種→カフェ(5)、ソースカツ丼・ラーメン(1)、居酒屋(2)、焼肉屋(1)、甘味処(1)、ジェラートアイス(1)

【土産店】
・フルーツ店(梨、メロン、干し柿)
・特産物をメインとした、あわらブランド品店
・地元食材が変えるスーパー→市民にとっては日常だが、観光客にとっては魅力なのではないかとの意見もあり

【暮らしツール】
・荷物預託所、宅配物受取所など、手荷物に関する利便性
・超高級車レンタルサービス、貸靴屋など、シェア機能
・その他→パンやヨガの教室、動物病院

【展示】
・創作の森のアート作品、本陣飾り、金津祭りの山車など、交代制で地域に根ざしたものを展示
・連動して実際に創作できるコーナー設置

【広場・イベント】
・文化祭や部活動などの活動の場
・移動型ステージ
・贅沢トイレ
・ビアガーデン、BBQ などのアウトドア

【駅の機能】
・シェアハウス、ビジネスホテルなど、宿泊機能
・雪対策
・収納倉庫

写真_1 グループ

【講評】福井工業大学 川島洋一教授、名古屋工業大学 伊藤孝紀准教授

・“贅沢”というキーワードについて、単に高級ということではない贅沢な表現とは何かについて、深く議論がされていると感じた。
・森のイメージ、展開方法の楽しいアイディアが出ており、期待できる。
・多様で詳細なアイディアがあり、勉強になった。

2-2-2　2 グループ

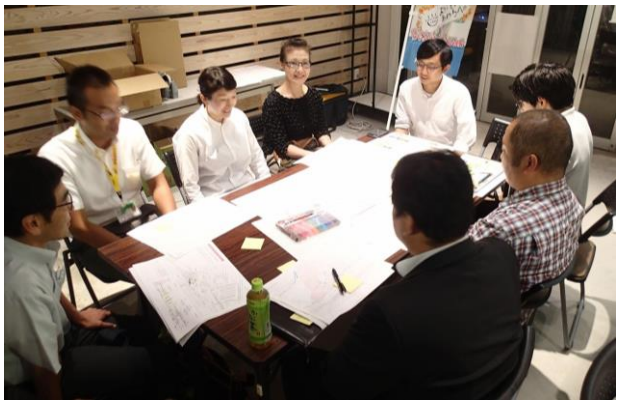
【キッズ】
・　子供が遊べるスペース
・　遊具、滑り台、ブランコ
・　ママ友利用カフェ
・　子供向け親子向けイベント

【イベント】
- クラフトマーケット
- イルミネーション
- セミプロがライブを行う規模のステージ

【飲食】
- 福井の名店（秋吉、越前そば）
- フルーツショップ
- コーヒーが１コインで楽しめる
- 農家の人が出店できる道の駅のような店

【体験】
- 植物を市民の手で育てる。
- 第６次産業マルシェ
- カルタに触れる場所

【周辺】
- 竹田川でカヌー体験
- 地元住民が情報提供できる場所
- 市民無料駐車場



【講評】福井工業大学 川島洋一教授、名古屋工業大学 伊藤孝紀准教授

・日本は全体的に少子化傾向だが、福井県は全国ほど少子化にはなっておらず、子どもに注目することはよいと思う。
・あわららしいイベントや食を体感した子どもたちを、将来のまちづくりの担い手としていきたいという着眼点がおもしろい。

2-2-3　3グループ

テーマ「観光客も楽しめて、市民も日常的に活用できる駅」

【観光案内所】
・カーシェア（あわら温泉へ気軽に行けるよう、宣伝を大々的に）
・レンタル傘の宣伝に力を入れた方が良い。

【飲食店】
・コンビニ
　営業時間が長い（電車が走る時間は最低限）。
　ATM・生活必需品が一式揃うもの・観光客の必要なものが一通りある。
　学生や市民が集まる。
　コンビニカフェが欲しい。
・ビアガーデン
　福井の綺麗な星を見られる。

【チャレンジショップ】
・ほっといたら人が来ない。
・話題性のあるもの。
・インスタ映えするコンテンツが必要。

【カフェ】
・営業時間を長くする（22:00くらいまでは）。
・学生が親の迎えを安全に待てる（勉強していられる）。
・勝木書店（ちはやふるで出てきた書店とタイアップ）。
・学習スペースとコワーキングスペースを兼ねたようなスペース（コンセント必要）。
・冬でも外で食事ができるようなオシャレなカフェストーブ。

【芦原温泉駅らしさ】
・名物「YUKIZURI」「松乃露」
・話題「ちはやふる」「チアダン」（インスタ映えする写真スポット）
・温泉卵を作れるスポット
・行灯・灯篭（湯～わくDoriのような）

【憩いの森】
・丘を作る
　冬に人が来ないと意味がないので雪遊びができる工夫が必要。
　ソリをレンタルする。
　高低差のあるデッキを利用しても良い。
・遊具
　大人も遊べるような遊具。

【商店街】
・民泊施設（観光客が気軽に泊まれる）

【ホール】
・２００（アマチュア）～５００（プロ）に可変する。
・企業の説明会などでも利用可能
・中学生が文化祭でイベント利用できるなど。
・ビジネスマッチングができるイベントを開催する。

【体験施設】
・ハスの実の家のパン作り
・金津創作の森の陶芸体験

【大階段】
・星空シアター
・映画館がないから定期的に映画を見られるイベントを開催する。

写真 3 グループ

【講評】福井工業大学 川島洋一教授、名古屋工業大学 伊藤孝紀准教授

・意欲を感じる発表であったので、皆さんの手で何か１つでも具体的に行動に移してほしいと感じた。
・コンビニ、夜行バス、夜営業のカフェなどのキーワードから夜に対する意見が多かったが、夜の賑わい演出も重要な視点である。
・あわらの特徴である“雪”を活かすという発想は新鮮であり、おもしろい着眼点である。

2-2-4　4グループ

テーマ
「地元文化を活かした地元の方に喜ばれる駅前を作り、芦原温泉駅周辺を巻き込み元気になることで、観光客が集まる駅前にすることを考える。」

【イベント】
・自然
　竹田川を活かしたつりぼり
　カヌーダンボールの復活
・屋外ステージ
　野外文化祭として、本来屋内で行うようなお茶やお花を外でしたい。
　新幹線の到着時間に合わせた太鼓の発表会
・観光客向け
　「ちはやふる」の百人一首イベント
　新幹線開業に因んだ、撮り鉄イベント

【ホール】
・祭りの太鼓の練習をする場所がなく、他の地域まで移動して練習しているため、練習場所を作りたい。体育館のような多目的な複合施設に。

【店舗】
・中華料理店
　もともと地元の方に愛されていたお店を復活させたい。観光客にも芦原温泉駅で長く愛されている味を感じてもらいたい。
・そば
　地元住民にも、観光客にも、駅で最も利用されそう。店舗の大きさ的にも。

・果物
　美味しい果物がたくさん獲れるので、それを活かしたカフェ

【ａキューブの活用】
・子供の遊び学びの拠点にしたい。
・観光客の荷物置きとして活用する。

【建物形態】
・全体の雰囲気として、近代的なものでなく、自然を大切にした形態があわら温泉らしい

【講評】福井工業大学 川島洋一教授、名古屋工業大学 伊藤孝紀准教授

・情報発信が容易にできる時代なので、いわゆる観光客向けの店では観光客は満足しなくなっている。それよりも、地元の人しか知らない店等を求めている観光客が多いので、観光客の欲望を満たすためにも、まずは地元の人が楽しむことが大切である。それこそが“あわら贅沢”ではないかと思う。
・地元文化を見て観光客が満足するという構図が見える内容がよいと思った。

2-2-5　5グループ

【店舗】

・ 終活として駅前を利用したい。（例えば写真屋や美容院、花屋などタイアップをして終活として店を利用する）
・ スタバなどおしゃれな店舗が入ってきてほしい。

【体験施設】

・ あわらは果物など農産物が有名なので、果物の木などを植えて、農産物の体験ができる場所が欲しい。農産物が売られるような場所が欲しい。
・ 舞妓さんや芸姑さんの格好で写真を撮れる場所が欲しい。またその格好であわら温泉まで歩きながら、街を散策できたらいい。

【チャレンジショップ】

・ 女性向けに和菓子やスイーツを食べることができる店舗が欲しい。

【a キューブ】

・ 駅前の店舗の変化に合わせて a キューブの活用方法を変えていきたい。

【ホール】

・ このエリアは泊まる人が多いので、ホールの上にビジネスホテルのような泊まれる場所があったほうがいい。
・ ホールを５００人くらいが集まれる全国規模のホールにしたほうがいい。

【商店街】

・ もっと商店街と駅との繋がりをもたせる（アーケードやデッキをかける、カラーや素材を統一する等）ようにしてテーマパークのような一体感をもたせたい。

【玄関口】

・ あわら市の玄関口のような場所にしたい。

【交通手段・利便性】

・ バスやタクシーといった夜の交通手段が不便なので、もう少し利便性のある駅前にしたい。
・ 営業時間が長いコンビニが欲しい。

【イベント】

・ 駅前全体をイベント会場のような場所にしたい。
・ １階のイベント会場と２階デッキに一体感をもたせたい。

写真_5 グループ

【講評】福井工業大学 川島洋一教授、名古屋工業大学 伊藤孝紀准教授

・a キューブをどうするかという意見があったが、新しく出来るものではなく、既にある a キューブをどう活用できるかという検討は大切である。既存資源を活用できないのに、新しくできる施設を上手に活用できるはずがない。
・既にある資源をいかに活用するかという視点を持つことはとても重要である。
・同意できる意見が多くあった。
・物を売るだけではなく、いかに体験させ、ストーリーをつくるかが大切である。そこに気づいていて、ストーリーをつくろうとしている視点がよい。
・駅前と商店街とを一体的に考えるという視点は重要である。

2-2-6　6 グループ

【販売】
・マルシェ：1 日の中でも定期的に行われるイベントがいい。

【仕事】
・地元企業が参入し、イベント協力やアイデアコンペ、もっと地域に地域企業の今後を考えるような内容がいい。

【飲食】
・とにかくおしゃれな洋風のコンテンツ（クレープやパフェなど）が欲しい。一方でそばなどの地元の料理も楽しみたい。買って外で食べたい。

【子供】
・子供達の取り組みがわかるような施設（サークル、部活、子供会。キッザニアなどの体験スペース）

【一体性】
・駅前周辺と川が連動するような取り組み。例えば、川付近にドックラン、駅前にドックカフェ。ショップで買った野菜を使って川で BBQ。

【屋外】
・パブリックビューイングや野外映画などみんなで一緒に楽しめるもの

【地元文化】
・地元の和太鼓や祭りの関係者の練習/作業場

【文化】
・障害を持った人たちのアートプロジェクト

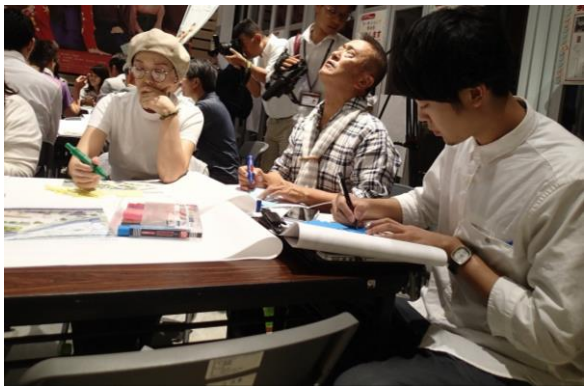


写真_6 グループ

【講評】福井工業大学 川島洋一教授、名古屋工業大学 伊藤孝紀准教授

・既にあわらにある資源をいかに活用するかという発想がよい。
・“誰にでも優しいまち”の中に、ペットにもやさしいという視点を入れている点が今までに無い発想である。
・イベントやマルシェ等を単独で捉えるのではなく、点と点をつなげるストーリーづくりまで考えているところがよく、それを許容する駅前広場づくりが重要だと考えさせられた。

2-3記録

会場設営

開会あいさつ（市土木部長）

開会あいさつ

（芦原温泉駅まちづくりデザイン部会長）

まちづくりプラン説明

グループディスカッション

グループディスカッション

1 グループ発表

2 グループ発表

3 グループ発表

4 グループ発表

5 グループ発表

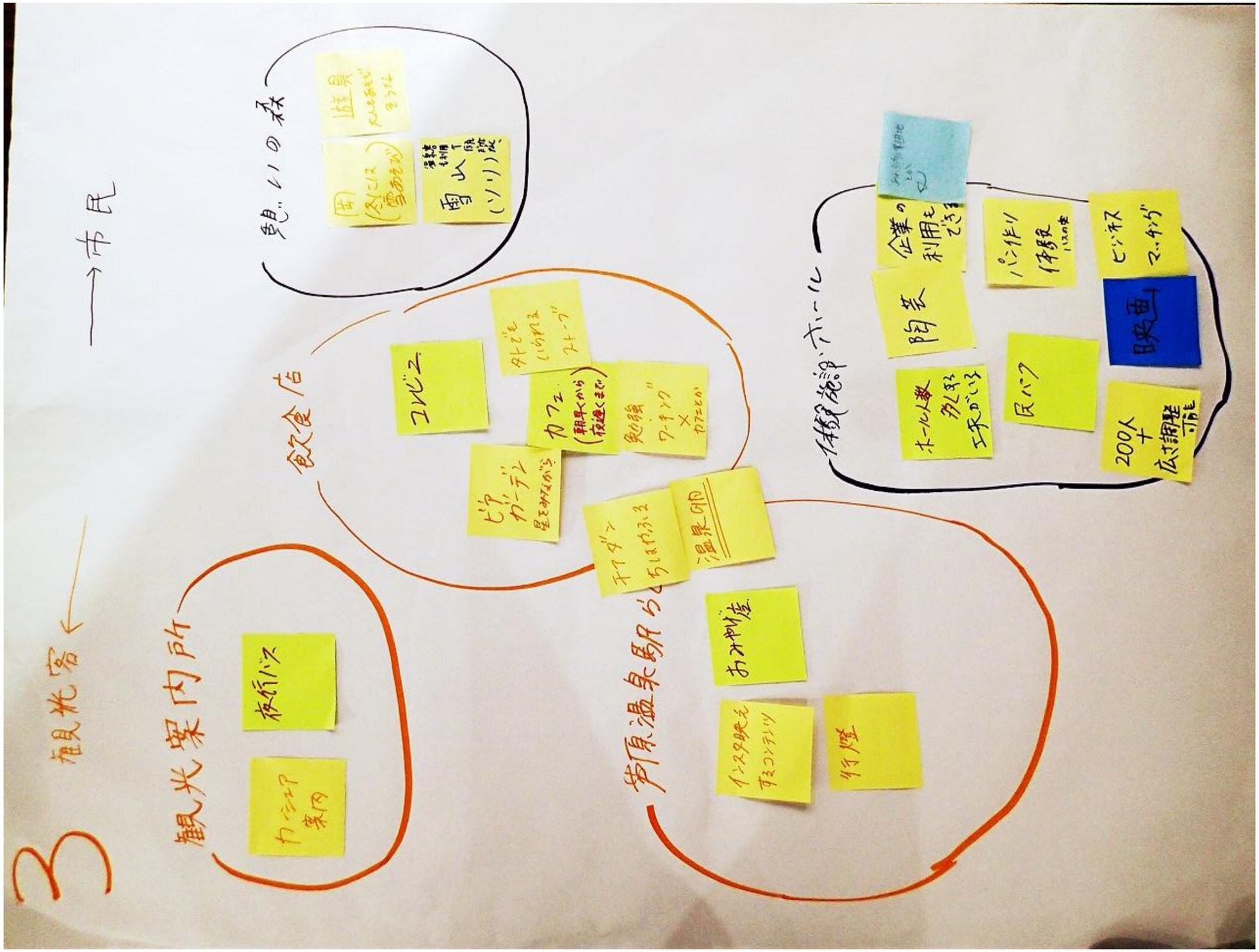
6 グループ発表

展示
月替わり アート展示
土産をつくれるコーナー
金津祭のしゅん間の展示場（実績で展示）
金津祭のPR
絵画が見れる所
工芸品の展示
手作り飾の展示場（金手作を交替で）
広場
文化祭で使える大ホール
ビアガーデン
BBQ場
贅沢 無料トイレ
部活動の練習場所
学生の部活 ↳ 吹奏楽
初心者向け型のステージ
ダンス
歌
講演
ライブ演奏
イベント
イベント…やるにつれ分かってきたりでは…（ハ）むしろ自由空間
官黄のみにしか来街者の時間を埋める、の様を満たす民間施設を
官黄のみ投じるなら…N.Y.のような「THE PARK」
若者広場 子供広場 お年寄り広場 障害のある人広場 etc 自由に開閉できるイベント!!
階段かけ上がりリレー大会
暮らしツール
シニア向け 内職センター 来れば仕事が有る
荷物を預かってくれて、頼めば お届けに上がってくれる。コンシェルジュサービス店
来車サービス 管理・イジも 請負う
超高級車レンタルサービス ブルーリライン ケヤキ並木をドライブ
貸動物屋 着物・シャワー付
遺棄ペット 受取所 再利用 ペット使い
教室 ピアノ・ピル
動物病院
サービスの充実
飲食
SNSであげたくなるような
だんご あんみつ
飲食店の移転集約
お年寄り・障害のある人 子供たちが集まれる空間（お喋り・カフェ・アート）
新幹線が入ってくるトコロが楽しめるカフェ
市民の為…来街者の為…Cafe.
カフェ
居場所が多様なカフェ
撮影スポット 季節で変わる
夜も営業している飲食店 居酒屋
開放された居酒屋
北の玄関口として福井のFood Shop（ランチも夜も）
主婦層 家事の間 とかに
ソースカツドン ラーメン
ジェラート アイス屋
地元食材が買える スーパー
おみやげ（フルーツ）梨・メロン・ほれ柿
あわらブランド品 特産物をメインに
土産品
会車駅に寄れる様に 座ルトコロ
あわら市 自MAP フルーツ・温泉マリ・傳ち・ハネを中心に
シニア・子ども を集めたい
収納場所 倉庫
建築の機能
雪対策（流雪）
階段を降りるとワーってなる店の並び（アウトレット的なイオンモールや）
宿泊
シェアハウス等の宿泊施設
ビジネスホテル 出張者対応
ビジネスホテル
本屋
ショップ
市内企業による日替りサテライトshop
あわら・坂井市の（宮のテラポート）温泉駅前 出張所（テント）
核となる365日営業のShop
ユニクロ 中高年代が対象の店
洋服・雑貨のセレクトショップ（誰でも出店できる）
市民参加のお土産店
子供が楽しめるだがしや
玄関口としての観光バスターミル
戸京・温泉駅の機能と役割とターゲット
利便性 ↔ 収益
来街者の視点も考慮した
Hも&M→客を引けば
在来線→新幹線
Outlet…△
AEON…△
ひょあ今ある…◎
芦原温泉駅に降りる理由??
1.学校 2.住み 3.企業 4.観光
4.観光
人口3万人の街に 来街300万人を 呼び込む企画!

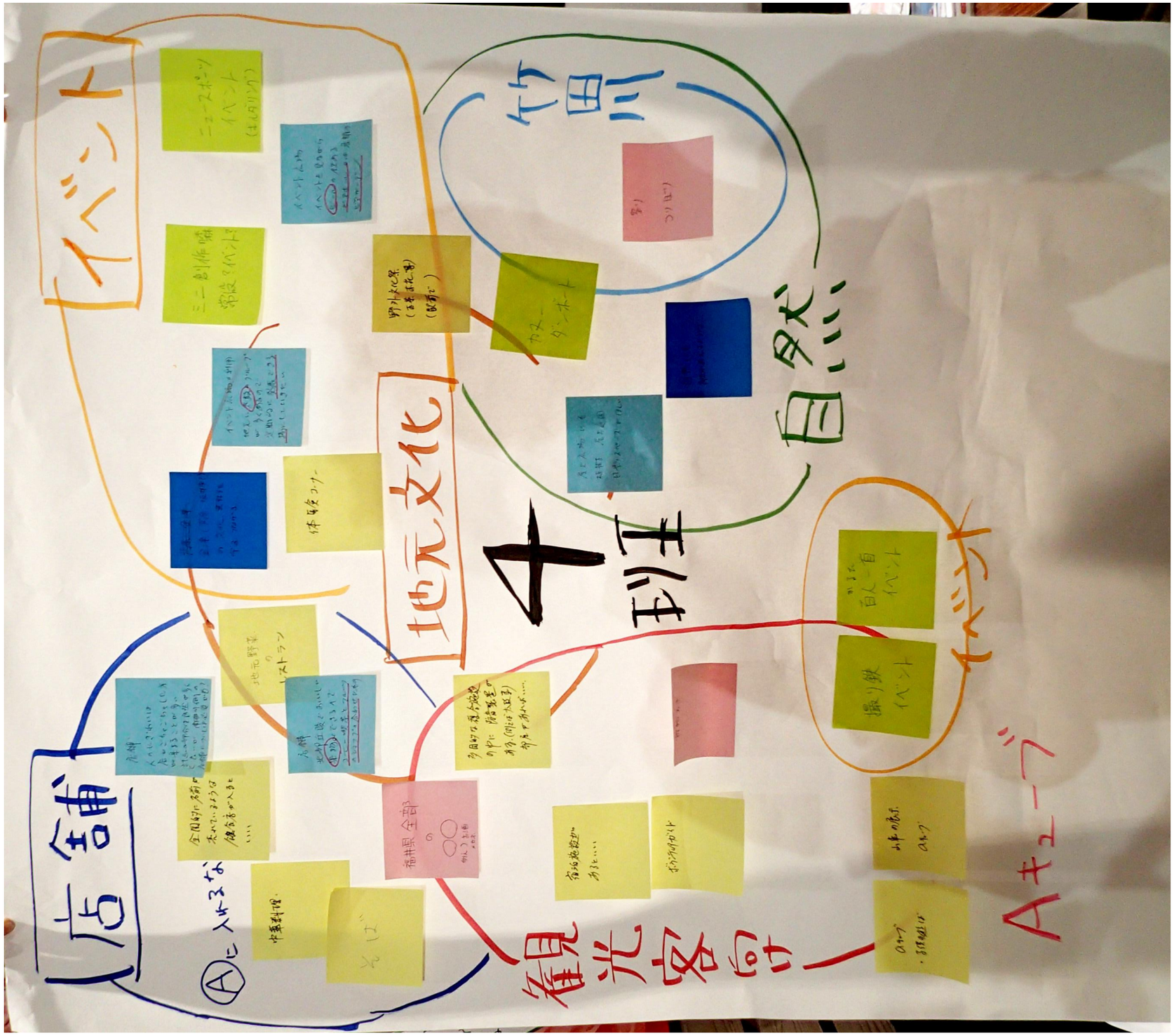
1グループ発表資料

イベント
金津まつり
から駅で
イベント
フラワー
マーケット
ミニボル
ツリー
イルミネーション
イベント
しいたい
マニュアル
ステージ
観光イベント
駅の方は
コンビニ
ゴミ
観光者は
ゴミ
観光
日がわり
おそば屋さん
(100円のそば)
道の駅
お母さんの
おべんとう
屋さん
フルーツ
屋さん
地元の小さな店
できる美味しい
発見知の店
観光
自分にとって
植物が引き
植物
人本馬車
自転車
シェアサイクル
ヨガ
「かるた」に
ついて知れる
場所
フルーツ
発見が楽しい
地元産
その時のニュース
で多いから店
観光
自転車
地元の方に
地元の方の
情報を最強
(100円の高い)
歩いて楽しめ
5分コース
15分コース
30分コース
ホールは
見ごたえ
もの
看板
観光案内所
駅
観光
電車の待ち
時間ちょうど
観光の為
観光
バス
観光
バス
観光
地元
バス
キッズ
遊具
子育て
ぶらんこ
保育所
こどもたちが
遊べるスペース
(ゆったり見れる)
キッズ用
体験工房
木工
料理体験
ランチできる店
かぼちゃ村の
様子
地産
地元
ママトモ
カフェ
有名店
おいしい店
牧場
福井名産品が
集まっている
地産
地元
店
子どもが
親子向け
イベント

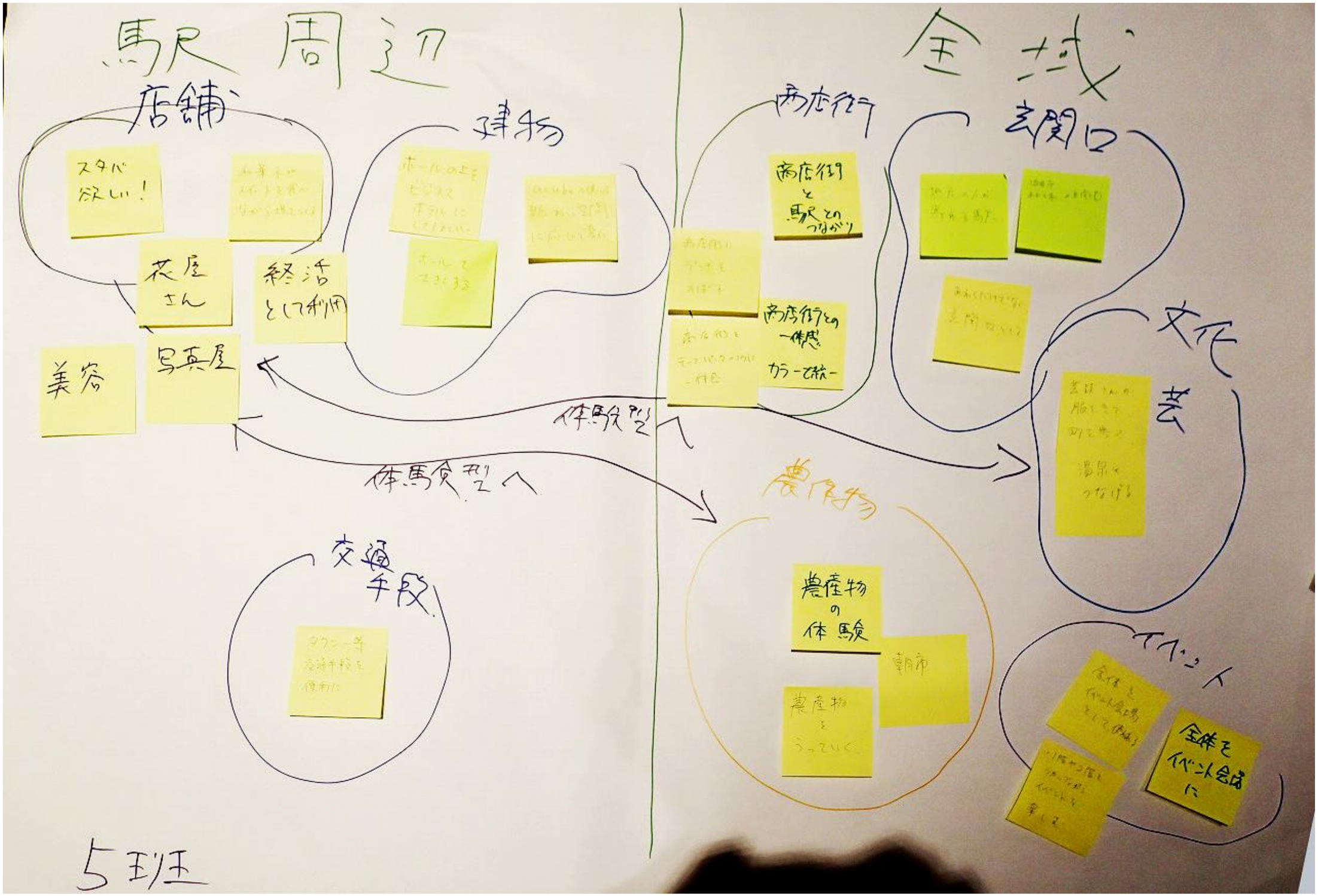
2グループ発表資料


3 観光客
観光案内所
カンシェア案内
夜行バス
飲食店
コンビニ
ビアガーデン
星とみなから
カフェ
(朝早くから夜遅くまで)
外でもいられるテラス
気の強いワーキング×カフェとか
体験施設・ホール
ホール人数 多くて 工夫がいる
陶芸
企業の利用もできる
ビジネスマッチング
映画
200人+広さ調整可能
パン作り体験
バス体験
民バス
見い・ハの森
遊具
大人も楽しめる
雪山
(ソリ)
冬には雪あそび
節原温泉駅から
ナイダー
ちょっとふる
温泉卵
おみやげ屋
インスタ映え するコンテンツ
特産

3 グループ発表資料


イベント
ニュースポーツ
イベント
(はロリング)
ミニ創作講
常設でイベント
イベントとは
イベントと思わない
イベント
地元文化
勝山文化祭
(基本は花菖
(既存)
体験コーナー
竹田
釣り
つりロー
カヤー
ダンボート
自然
アクティビティ
撮り鉄
イベント
自人一首
イベント
地元野菜
のレストラン
そば
福井県 全部
の
観光案内
店舗
中華料理
Ⓐに入ってる
Aキューブ

4グループ発表資料


駅周辺
店舗
スタバ欲しい！
花屋さん
経活として利用
写真屋
美容
建物
ホールの上をビジネスホテルにしてほしい
ホールをエントランスに
体験型へ
体験型へ
交通手段
タクシー等交通手段を便利に
5班
全域
商店街
商店街と駅とのつながり
商店街との一体感
カラーで統一
玄関口
文化
芸
農作物
農産物の体験
朝市
農産物をうっていく
イベント
全体をイベント会場に

マルシェ
マルシェ
全域 宿泊
キッザニア
ワークショップ
全域 竹田川
6G
駅周辺・全域
イベント
映画
アート
講演会
ファッションショー
そば屋
フリーマーケット
つむれ屋
フリマカフェ

6 グループ発表資料

2-4成果・検討結果

2-4-1　3グループ以上でみられた項目

凡例:【項目名】［グループ番号］→主にみられた意見

【飲食】[1,2,3,6]→気軽に入れ、迎えを待つ時などに利用できる場所
【体験】[2,3,5]→地元の農産物等を生かした体験から販売までできる場所
【イベント】[1,2,4] →駅前全体を利用、文化祭・部活動でも利用可能
【店舗（ショップ)】［1,4,5］→地元企業の店舗。主に飲食店

2-4-2　2グループでみられた項目

凡例:【項目名】［グループ番号]→主にみられた意見

【子供】［2,6］→子供が遊べる場所。子供が集う活動のための場所
【ホール】［3,5］→200-500人くらいの規模感
【商店街】［3,5］→民泊施設。駅との繋がりをつくる。
【aキューブ】［4,5］→駅前店舗に合った使い方。子どもの拠点

2-4-3　全体の総括

各グループの発表内容を総括し、以下の４つの視点で整理する。

(1)各エリアの連携

賑わい空間や土地活用検討街区、ａキューブエリア、駅前商店街エリア、竹田川エリアなど、エリア毎に機能を当てはめていくだけではなく、それぞれのエリアが他のエリアの機能の補完を行い連携することが重要な視点である。それにより、まち全体への回遊性が生まれ、賑わいが持続しやすい効果を生むと考えられる。

(2)まち全体で体験させる仕掛けづくり

ひとつの場所で体験型イベントを行うのではなく、例えば、舞妓体験でも、着付けはａキューブ、ちょっとしたスイーツの店が商店街にあって、竹田川等で自然を体感してもらいながら記念写真が撮れるなど、１つの体験型イベントでもまち全体で体験ストーリーを組み立てることで、観光客があわらのまちを自然と体感できる。まち全体を観光資源ととらえて何が出来るかを考えることが重要である。

(3)既にある場所の活用

新しいものをつくるだけではなく、ａキューブや駅前商店街の空き店舗などの既にまちにあり活用可能な場所を賑わいの場として活用することが、まちへの賑わいのにじみ出しには有効であると考える。例えば、駅前商店街の空き店舗を、これから店舗を始めたいと考えている若者などのチャレンジショップとして活用したり、金津本陣にぎわい広場で子育て世代を対象とした子育てサロンやキッズスペースをａキューブ内に整備するなど、利用者や将来イメージを想定した具体的な検討が求められる。

(4)市民の賑わいを観光資源に

近年の観光は、単なる観光地見学ではなく、その地方の日常生活を垣間見ることや、体験することに対してのニーズが高まっている。あわらの魅力を発信し、観光客を満足させるためには、地元の農産物販売や地域の小中高生の文化祭の開催や部活動など、市民自身が楽しんで活動する様子を発信することが大切である。市民にとっても、活動を発表できる場が出来ることで、その場所に愛着を持つきっかけとなる。

第3章　市民ワークショップの制作物

3-1　告知物等

3-1-1　チラシ及びポスター

ワークショップ開催にあたり、チラシ 3,000 部（A4 判カラー片面）とポスター500 枚（A2 判カラー片面）を制作した。

JR 芦原温泉駅周辺
まちづくりプランの素案完成！

ワークショップ参加者募集します

9月20日(水)
19：30 - 21：30
aキューブで開催！
所在地：あわら市春宮一丁目11番地

駅周辺まちづくりプランの実現に向けて考えよう

平成35年春の北陸新幹線芦原温泉駅開業に向けて、駅周辺の機能配置などを示すまちづくりプランの素案が出来上がりました！
このプラン実現のために、昨年、将来デザインを描いた伊藤孝紀氏（名古屋工業大学大学院 准教授）を招いてワークショップを開催します。
皆さんの声をお聞かせください！

申込
9月11日（月）締切
電話またはメールにて事前の申込み（氏名・連絡先）をお願いします。

問合せ
あわら市新幹線まちづくり課
Tel / 0776-73-8034
Mail / shinkansen@city.awara.lg.jp

※お車でお越しの場合は、市営芦原温泉駅西口駐車場（a キューブ北側）をご利用ください。

チラシ及びポスターの紙面デザイン